

Sports Net

ちば 2025年6月号

New Japan Sports Federation in Chiba Prefecture

2025年6月15日

「スポーツは平和とともに」

新日本スポーツ連盟千葉県連盟

〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-1-17

Tel 043-287-7353 Fax 043-256-1454

URL <http://njsf-chiba.perma.jp>

E-mail njsf1970chiba@gmail.com

発行人 園川 峰紀

通巻 272号

地球の宝・船橋三番瀬を歩く ~~千葉県ウォーキング協議会・5月例会~~

5月27日（火）例会当日は生憎の曇り空、肌寒い一日でした。

今回の目的地・三番瀬は浦安市・市川市・船橋市・習志野市に三方を囲まれた約1800haの干潟と浅瀬の海域で、一年を通じて渡り鳥が観察できる市民の憩いの公園です。

JR京葉線・二俣新町駅に集合・スタート。

船橋三番瀬海浜公園まで2.4km歩きます。目的地までのルートは巨大な工場が立ち並び大型トラックが行きかう産業道路なので殺風景に聞こえるかもしれませんが、歩道が完備しており、また緑地帯が続き、桑の実が熟し、味見を楽しんだり、カンナの花が咲いたりして我々の目を十分楽しませてくれました。



ゆっくり1時間かけて歩き現地到着。当日は「潮干狩り」イベントが開催されていて大勢の人が楽しんでいます。当日の干潮は10時07分。沖の方まで潮が引き広大な干潟が現れていました。ここ三番瀬は何百年、何千年もかけて上流から運ばれて来た栄養豊かな砂によって作られた「生き物の揺り籠」。渡り鳥は観察できませんでしたが。蟹の作った砂団子や貝が住んでいる穴などを観察して歩きました。



展望台（晴れていたら富士山が眺望できます。）で昼食をとり、環境学習館へ向かいました。小学生の団体が校外学習に来ていたので私たちもちゃっかり便乗して一緒に体験させてもらうことに。

「三番瀬の海の中の様子のパノラマ」「渡り鳥の名前探し」「渡り鳥たちの嘴探し」「渡り鳥の姿当てっこ」「貝の殻と名前探し」等の興味を引くコーナーが沢山用意されていて楽しいひと時を過ごすことができました。

学芸員の方に「鳥達が貝を殻のまま食べているのですが大丈夫なのですか？」と聞いたところ「大丈夫です。お腹の中で殻を割って中身を消化する仕組みになっています。」との答え。小さなクラゲが飼育されていてクラゲのポリープ（子ども）も観察することができました。学芸員の方の説明によると「東京湾の水が綺麗な理由は三番瀬の生き物たちが汚れた水を浄化してくれているから」ということでした。「東京湾が魚の宝庫であり続けるのは三番瀬があるから」ということ改めて学び直した今回のウォーキングでした。

（文責：日野/千葉県ウォーキング協）

千葉韋駄天アスリーツ風神、7年ぶりの優勝!! 2時間6分11秒! ~~第23回千葉・青葉の森リレーマラソン~~



7年ぶりの優勝 韋駄天アスリーツ風神

前日の雨模様の天気から開催が危ぶまれた「第23回千葉・青葉の森・リレーマラソン」当日は雲間から薄日が覗く絶好のマラソン日和となりましたが、前日に行ったリレーゾーン用の路面に表示したテープが全部剥がれてしまい一同唖然！一方、会場には参加する選手が続々と集まる中、役員総出で大会本部を含め会場設営に汗を流すことに！

午前7時半過ぎ、どうやら会場の体裁が整い受付開始、一部のチームが中々現れずやきもきしましたが開会式が始まる午前9時前には出場を申し出ていたチーム全ての受付が完了！

開会式でのNorth Park1、同2 (R/N 105/106) 所属小学生ランナー総出での選手宣誓には大人のランナーへの暖かいメッセージが満載されていて思わず会場全体から大きな拍手が揚げられました。

かわいい選手宣誓



午前9時半、今回はランナーとしても走る小高晶子スターター（船橋陸競）の号砲で一斉にスタート！スタートから勢いよく飛び出していくランナー達。



今年も優勝を本命視されている「JREASTランナーズA (R/N 1)」がトップを走る展開と思いきや、若干遅れを取る展開に。なんとここ毎年JREASTの後塵を拝している「千葉韋駄天アスリーツ風神 (R/N 2)」が終始トップを譲らず、一時2分近くの差をつけ、終盤JREASTの猛追を振り切り2時間6分11秒で第18回大会（2018年）以来7年ぶりの優勝を勝ち取りました。

惜しくも2位に甘んじたJREASTは55秒差の2時間7分06秒でフィニッシュ。

フィニッシュ後のインタビュー「中々抜けなかったJREASTさんに感謝します。チーム

記録の更新が出来ました」(風神監督)



「今まで他チームの背中を見られないレースが続いたが今回は違いました。風神さんに感謝。

来年はリベンジを図ります」(JREAST・最終ランナー) お互いに感謝を述べる姿からも、3位に入った「奏坂RC」とは10分以上の差があったことから、当分の間この2チームによるデッドヒートが続くことは間違いなく、他チームを寄せ付けない群を抜いた実力のチームである証ともいえます。

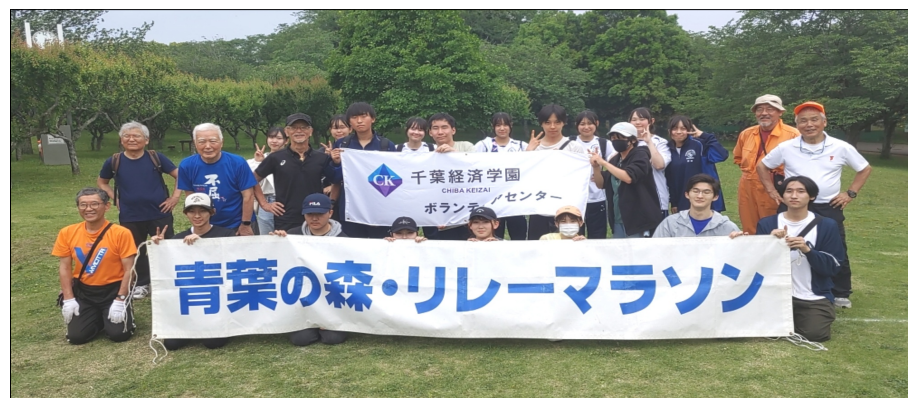


レースはその後
も順調に進行。制
限時間を超えたチ
ームや、周回をミ
スしたチームもあ
りましたが13:30
過ぎに全てのチ
ームが完走を果たし、
その上救護班の出
番がない「無事故」

という内容
で今年のリ
レーマラソ
ンも無事終
了することが
出来ました。



最後に今年もボランティアでご協力いただいた千葉経済学園の高校生・大学生ボランティアの若い力に感謝！感謝！ (文責 園川)



常任理事会 報告

5月15日(木) 穴川コミュニティーセンター
会議室において、53期第2回となる常任理事会
を開催いたしました。

【経過報告関係】

4/19 第53回定期総会

5/4 MIXバレーボール柏市大会

スキー協議会運営委員会

テニス協議会 6大会、野球協議会リーグ戦

【協議関係】

○常任理事会等の開催日について

4役会議は第2水曜日

常任理事会は第3木曜日

理事会は6/21(土曜日昼)、11/21(金曜日
夜)、4/4(土曜日昼)

○全国理事会報告

・11月にプロGRESSを名古屋で開催する(60周年記念レセプションを併せて開催する方向で準備検討)

・反核マラソンにフランスFSGTから参加希望が寄せられている

・反核ラン&ウォークについて

船橋の戦跡巡りを中心に検討

★コース：JR船橋法典駅～中山競馬場～熊野神社～馬頭観音～船橋通信塔跡～日本建鉄工場跡～東武アーバンパークライン新船橋駅

※総距離 約6km・2時間弱で完歩(完走)

5月28日下見を実施予定

○第25回全国テニス選手権について

今年12月20日～21日にフクダ電子ヒルスコートにおいて開催予定

事前の下見、打合せ等で会場確保

○空手協議会

・仮称関東ブロック大会開催について検討

○SportsNetちば6月号7月号の掲載内容

スポーツアラカルト

25年度の野球はMLBで活躍する選手の報道(中でも大谷選手の活躍はめざましい)が連日される中、自由契約となる選手もいる。プロの世界は結果を残さないと厳しい現実が待ち構えている。

一方、NLBはセパ共に混戦模様でどのチームが抜けだしていくのか?興味は尽きない。セリーグは藤川阪神が投手陣の踏ん張り、打線が功を呈し首位戦線を走っている。

一方、開幕当初からでは好調を維持してきた巨人は中盤に入りエース戸郷投手の不調で波に乗り切れず、また、打線の軸である岡本選手がけがで離脱し苦しい状態が続いている。

パリーグでは昨季低迷していたオリックスと西武が奮闘している。また、前半主力の故障離脱でソフトバンクが最下位を低迷していたがここにきて控えが奮闘して徐々に盛り返している。就任4年目の新庄監督ひきいる日本ハムは投打がかみ合い首位を走っている。交流戦も好調を維持するなら覇権も見えてくる。

地元千葉ロッテの成績が心配である。投手陣は奮闘しているが打線が応えられていない事が今の成績に反映されている。どこまで巻き返せるか?最低でもCS進出を願い中盤・終盤まで見届けたいものである。

新日本スポーツ連盟の野球は過去一番早い(例年より1ヶ月半以上)日程となる9月22～23日で全国大会が北海道旭川市で開催される。その為、千葉県でもリーグ戦を3月から精力的に試合を展開している。遅くとも8月中旬に千葉県代表を決定する予定である。

雨の影響を受けやすい屋外スポーツである野球は今年早め予想の梅雨前線動向が気になるところである。

野球以外では大相撲の夏場所が注目である。

横綱を目指す大関大の里が力強い相撲を連日展開している。小生は初日から3日間の相撲を見て横綱昇進は間違いないと確信した。この記事が届くころには横綱大の里誕生で相撲ファンだけでなく多くの国民が祝っている事だろう。

県連盟理事・野球協議会事務局長 脇村 元夫

山口 幸雄さん

理事・ランニングクラブ

今回紹介する方は2024年度から県連盟理事として活躍されている山口幸雄さんです。同姓の山口順さん（卓球協）と混同しないように仲間内では幸雄さんと呼ばれています。



お生まれは、かかあ天下と空っ風が吹き荒れる上州は群馬県・渋川市。

がらっぱちな性格はもって生まれたものと言えるかもしれません。小・中・高校と地元の学校を卒業後は風雲の志を胸に秘めて上京、都内江東区のとある製造業工場に就職。

我慢できない性格だそうで幾つかの会社勤務を変遷しましたが、勉強不足や研修が足りない等で私的も含めて全ての県へ行ったそうです。

千葉県に引っ越してから以来70有余年、下総・鎌ヶ谷の住人となり身も心も千葉県民として定着。とにかく一途な性格なんですね！

スポーツとの関りから言えば、高校時代にはラグビーに目覚め、楕円形のボールと格闘？！ちょこまか動き回ることからポジションはウィング専門。トライする機会は残念ながら1回もなかったとのことでした。

千葉県に引っ越した後、人生の伴侶に巡り合い結婚。その後はお互いにスポーツに汗を流す機会に恵まれ、暇を見つけてはお二人でテニスや山登りに精を出していたそうです。テニスは今でも続けていますが山登りは断念。



一方、パートナーさんは今でも「百名山踏破」を目指しているとのこと。ご本人はもっぱらその成果を見守るそのまなざしに

は愛妻家の一面も垣間見えました。

新スポ連と関わったきっかけは、野球協のお二人（田久保副理事長、脇村理事＝既に過去の「人物探訪」で紹介済）と知り合った事から。「お二人からは野球の試合にも誘われ大会にも参加させてもらいました。ちょこまかと動きが良いことから専ら守備要員としてセカンド・センターを守っていました。」ここにはすばしい性格が幸いしていたようです。

その他に弁護士さんのランニングクラブ（ランランラン）に誘われランニングにも精を出していますとのこと。

残念ながら現在は大病を患いマラソン大会への出場は控えています。ランニング歴は15年以上。ピーク時は年間7～8回は大会に参加していたとのことですので大病もきっと退散することでしょう。



ホノルルマラソンにも参加



「新日本スポーツ連盟はすぐ仲間になれる事が嬉しいです。他分野の協議会の方との交流ができるとなお嬉しいです。

現在は体調を調えて新スポ連の行事に参加できるよう努力しています。」常に前向きに考えて行動する幸雄さんを見習わなくてはと思わせるインタビューの締めくくりでした。

(園川)

SPORTS CALENDAR

6月

6月 1日(日) 野球協リーグ戦 (稲毛海兵A/B)
6月 7日(土) 卓球全国大会予選 (四街道公園体育館)
6月 8日(日) 卓球全国大会予選 (四街道公園体育館)
6月15日(日) 野球協リーグ戦 (宮野木・古市場)
6月22日(日) 野球協リーグ戦 (尼ヶ台)
テニス女子3ペアチーム対抗 (稲毛海兵)
6月24日(火) ウォーキング協議会例会 (いすみ市)
6月29日(日) 野球協リーグ戦 (檜橋球場)
テニス男子370チーム対抗 (天台B)

6月11日(水) 四役会議
6月19日(木) 常任理事会
6月21日(土) 理事会

7月

7月 5日(土) テニス全国大会予選混合D 天台B
バレーボール関東大会(JFE体育館)
7月 6日(日) テニス全国大会予選女子D 天台B
MIXバレーボール夏季交流大会
7月13日(日) 野球協リーグ戦 (稲毛海兵A/B)
7月19日(土) テニス (女・混・男)Dチーム対抗戦
バレーボール全国大会
7月20日(日) テニス全国大会予選18歳男子S 天台A
7月21日(月) テニス全国大会予選18歳女子D 稲毛海兵
野球協リーグ戦 (有吉公園)
7月22日(火) ウォーキング協議会例会 (木更しびの里)
7月 9日(水) 四役会議
7月17日(木) 常任理事会

★中学生がスポーツクラブや部活動に支払う年間経費は？ ★運動実施率6割台に低下？！ ～～興味深い二つの調査結果：笹川スポーツ財団～～

新スポ連機関紙「スポーツのひろば」では、編集会議で「スポーツ愛好家はスポーツに一体どのくらいのお金を使っているか特集を組んでみたいね」「誰でも使える公共スポーツ施設が少なくなっているよね！」と話題になっていましたところ、興味ある調査結果が笹川スポーツ財団から二つ発表されました。

その一つが中学生の部活動やスポーツクラブに支払う経費。スポーツクラブに支払う経費は部活動の約3倍に上がることが分かりました。部活動が年間5万857円に対し、スポーツクラブは15万5799円。今中学校の部活動はスポーツ庁主導で地域移行の展開が進められていることは多くの読者もご存じだと思います。

その受け皿として地域クラブの存在が期待されていますが、外部講師や施設に委託する関係からかなりの予算が必要となり家庭の負担増にも繋がるとの指摘もあります。実質賃金がマイナス基調で下がり続けている現状を考えると親の収入に伴う経済格差から部活動を諦める子供が出かねない状況が懸念されます。

もう一つが、日本人の運動実施率が減少傾向にある事。

全国の成人を対象にした2年に一回の調査結果によると、散歩などを含む年1回以上の実施率が69.8%に留まり、2006年の調査以来となる6割台に下がりました。今回の調査は新型コロナが「5類」に引き下げられた2023年5月以降始めて行われました。

年一回以上の実施率は2010年には76%まで上昇しましたが、その後は徐々に減少。「社会生活が元に戻り、どうしても仕事や学校に時間を取られ、スポーツに時間を割けなくなっている。コロナ渦で巣ごもり需要が高まり動画視聴やゲーム等自宅で快適に過ごす人が増えている」と調査担当者は指摘しています。

因みに、年1回以上の種目別運動実施率上位ランキングは、1位散歩、2位ウォーキング、3位体操。「スポーツ政策が不十分」有識者も警鐘を鳴らしています。

スポーツ権を謳ったスポーツ基本法にスポーツくじを導入・正当化する動きもあります。国のスポーツ予算をもっと増やしてほしい声を愚直に行政に届ける運動は欠かせません。



理事長の便り言